

南無阿弥陀仏は  
私のいのち



〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19  
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺  
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796  
<http://saitokuji.tobihiro.jp/>  
発行人 岸本 秀一  
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



(撮影 内山昌一氏)

## 私は何者なのか

フランスの巨匠ポール・ゴーギャン、その最高傑作と讃えられる大作に『我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか』という作品がある。様々な出遇いと別れの中で描き続けてきた、その集大成ともいべき彼の叫びがこの作品名となった。

「私は人間である」、問いにすらならない言葉であるが、「人間とは何か、私はいかなる存在なのか」ということを、人生において深く究明することはほとんどないのではないか。すでに自明のこととして、まるで愚問のように取り合おうともしないのが私である。

『歎異抄』に「そくぼくの業をもちける身」、「自身はこれ現に罪悪生死の凡夫」とあるが、人間とは様々な制約に縛られ、与えられた現実が引き受けられずに苦悩する身が言い当てられている。

出生時、自分では何も選択できず、日本文化の影響を受けて暮らしている。また、家庭や職場では複数の立場があり、世間では幾つもの顔を使い分け、計り知れない人間関係に翻弄され、満足しきれずに人生を迷走しているのが我々の生き様ではないか。

「私」とは、人間の理解を超えたいのちを賜っている存在であり、それは仏の教えによってはじめて気づかされる。仏様の智慧によつて本当の自己に目覚め、生まれてきた意義と歩むべき道を見いだしていけという喚びかけが南無阿弥陀仏である。

(木村 専正 記)



# 秋季永代経法要の ご案内 「喜寿記念法話」

「毎朝 毎朝 洗面所の鏡にむかって 私は自分のなにを見ていたのだろうか」(浅田正作)、落語に「障子の穴から、隣家の破れ障子を見て笑う」話があるが、目は外に向いてついている。だから、つい人の落ち度を探してしまう。それで「おまえの目は節穴か」といわれるが、川柳に「白内障術後びっくりシミとシワ」とあり、見ていても見えていない、本当に見えたらびっくりする。外側だけのことではない。目が有り、見えるが故に騙され、錯覚することは多い。『星の王子様』に「かんじんなことは目にみえないんだよ」とある。

仏教の教えは、「私を映し出す鏡」だといわれる。それは目の有る無しに関わらず、かんじんなことを映し出す。真宗では、お彼岸を「聞法週間」と呼ぶこともあるが、この機会に、教えを通して「自分」に出遇ってみてはどうでしょうか。「墓参り 今ならわかる 父のことば」とあります。さまざまなきっかけが「自分」を教えてください。

今回のご法話は、今年めでたく「喜寿」を迎えられた、大谷最高顧問から記念法話をいただくこととなりました。いよいよ円熟味を増した大谷最高顧問に、日常における様々な問題を通してお念仏のいわれをあきらかにしていただきたいと願っております。

この度の法要には是非ともご家族・ご友人をお誘いいただき、共に仏法聴聞させていただきたく、ご案内申し上げます。

## 記

日時 平成 26 年 9 月 22 日 (月)  
午後 1 時 30 分より

場所 西徳寺 本堂

## 「喜寿記念法話」

西徳寺最高顧問 大谷 義博師



お念仏を伝承してくださった五人目の高僧は、中国で仏教が栄えた時代の、善導大師(613~681)です。善導大師は、玄中寺におられた道綽禪師を訪ね、『観無量寿経』の教えを受けて、お念仏の道に入られました。大師には、多くの著作がありますが、『観無量寿経』を、凡夫を救う教えとして、深く読み込まれた注釈書『観無量寿経疏』四巻が有名です。

『観無量寿経』は、インドのマガダ国で起つた、王家の悲劇からはじまるお経です。王子の阿闍世が、父の頻婆娑羅王を投獄し、母の韋提希夫人を宮中の奥ふかく閉じ込めました。韋提希を救おうと大切な説法を中座して立たれたお釈迦さまに、韋提希夫人は「世尊(お釈迦さま)、我、宿何の罪ありてか、此の悪子を生ずる。世尊復何等の因縁有してか、提婆達多と共に眷属(親族)為る。(『観無量寿経』)」と、愚痴と怨みをぶちまけます。

やがて、その場で沈黙をしておられるお釈迦さまの姿に導かれた韋提希夫人は、浄土に生まれることを願って「我に思惟(寂かに思い浮かべる方法)を教えたまえ、我に

正受(ありのままに受け取る方法)を教えたまえ」と求めます。それに応じてお釈迦さまは、まず心を静めてひとすじに浄土の相を観察する行(定善)、つぎに心が散り動揺するままで悪を廃し善を修めようとする道(散善)を説かれます。だから、当時の名のあ

五逆・十悪の人(正信偈の話④参照)も、共に凡夫であることにかわりはないと気づかれます。そして、凡夫といえ、善凡夫も悪凡夫もあるように思っても、それは縁が違っただけのことだといわれます。よい縁に恵まれると「デート中はずんでしまう 募金箱」なのに、



### 正信偈の話 ③7 松井憲一

善導独明仏正意 矜哀定散与逆悪  
光明名号顕因縁

善導ひとり、仏の正意に明らかにして、定散と逆悪とを矜哀して、光明名号、因縁を顕す。

れた親鸞聖人は、まず「善導ひとり、仏の正意に明らかにして」と、讃えられます。そして、この経が、後の世に永く伝わることを願うところ、お釈迦さまが、側近のお弟子の阿難尊者に「是の語を持っては、即ちは無量寿仏の名を持ってとなり。(『観無量寿経』)」といわれます。このお釈迦さまの言葉に、善導大師は、今まで、定と散を教えてきたが、阿弥陀仏の深い願いは、「衆生をして一向に専ら弥陀仏の名を称するに在り。(『観無量寿経疏』)」と、ひとえに称名念仏のお勧めが「観無量寿経」の深意であったと頷かれます。

そして、その本願のお心は、凡夫は南無阿弥陀仏の名がなければ、仏を念ずることも浄土を願うこともできないから、闇を照らす光明の縁に催され、南無阿弥陀仏の一言一言に目を覚ませとよびかける名号の因にふれて、信心を発させ浄土往生の道を歩ませるのだといわれます。この善導大師のお勧めを、聖人は、「光明名号、因縁を顕す。」と讃えられるのです。

る学僧は、仏道実践の行を説かれた經典として『観無量寿経』の疏(注釈書)を作り、多くの人のびとが修行にはげんでいました。しかし、善導大師は、韋提希夫人が求めもしなかった散善の道を説かれたお釈迦さまの本意を訪ねられ、定散の修行をする善人も、

善人であるとうぬぼれてみたり、悪い縁が続くとひがんで、自暴自棄になるのは、凡夫でありながら、「いま」罪悪深重の凡夫であるという自覚がないからだを教えられたのです。この大師の「凡夫のため」の『観無量寿経』という、指示に感動さ

# 山門の言葉

## 「学び方」を学ぶ

内田 <sup>たつる</sup> 樹

これは思想家・武道家である内田樹氏の言葉である。内田氏は武道に携わる中で、師を持つことが大切だという。その理由は、弟子とは、何か特殊な技術や専門知識を教わるのではなく、師から学び方を学ぶ者だと教わったからである。弟子とは、師の言動一つ一つを観察し、「この言葉は私に何を伝えようとしているのだろう」と問う者である。どんなことも問いになり、思索を繰り返す。このように、自ら問い自ら学ぶ姿勢が身についていく。これが学び方を学ぶ弟子の姿である。

もちろん、簡単に師弟関係が結べるとは限らない。なぜなら、私達は自分の考えが最も正しいと思いついてからである。自分が一番正しいのだから、人の話など聞かないのである。更に、自分中心の考

え方を疑わないので、自身が誰かの弟子と成るのは容易なことではない。



親鸞聖人においても、念仏の教えを説かれた法然上人をすぐに師と仰いだわけではなく、それまでに六角堂に籠もり、百ヶ日の時間を要したという。その間、様々な疑いや、うなづけないことがあったのかもしれない。ただ、法然上人との出会いがきっかけとなって、今までの学びを問い直された。そしてその再検討は、六角堂に籠もられた日々を留まらず、親鸞聖人の一生涯となった。まさに一生涯が、学び

の人生であった。

もちろん念仏の教えは、法然上人から始まったのではない。法然上人もまた、善導大師の著書に念仏の教えを聞き、その善導大師もまた先人から学んだのである。親鸞聖人はこの事実から、「ただこの高僧の説を信ずべし」と讃歎されたことである。

内田氏の場合、多田宏氏のもとで武道を学んだのだが、多田氏は植芝盛平氏と中村天風氏という先生がおり、更にその上にも先生がいらつしやるという。このように、一人の師との出会いの背景には、無数の先生方の広く豊かな教えが流れている。師との出会いによって、自分の経験や獲得した学びの再検討が引き起こされる。それが、弟子に成る歩みである。

(高橋 淳 記)



## えこお志お礼

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。  
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

千葉市 川島 弘 様  
 流山市 土居 正博 様  
 山口県 嶋崎 敏子 様  
 柏市 山本 英男 様  
 江東区 野口 一恵 様  
 鎌ヶ谷市 鈴木 秀夫 様



## 日 誌

7月17日 上野・下谷仏教会 流灯会 (不忍池 仲井参加)  
 7月19日 混声合唱団エコー練習  
 7月23日 婦人会聞法会「釈尊伝」に聞く  
 7月24日・25日 本山 坊守研修会 (岸本坊守参加)  
 7月27日・28日 宗祖忌  
 7月29日 仏教青年会座談会  
 7月30日 総代会  
 8月1日～10日 岸本住職 本山勤式当番勤務  
 8月2日 大橋伊知郎君・佐也加さん結婚式 (本堂)  
 8月7日・8日 中興忌  
 8月9日 混声合唱団エコー練習  
 8月13日～16日 孟蘭盆会



# 掲示板

平成26年 9月

- 
- 
- 
- 2日(火) 午後7時 仏教青年会『歎異抄』に聞く  
講師 宗正元師
- 6日(土) 午後1時半 定例聞法会  
午後3時半 評議員会定例役員会  
午後3時半 混声合唱団エコー練習
- 11日(木) 午後2時 教区研修会(新横浜グレイスホテル)
- 13日(土) 午後6時 同行会「現代の聖典」に聞く  
法話 木村主任
- 17日(水) 午後1時 婦人会聞法会「釈尊伝」に聞く
- 18日(木) 午後1時半 『唯信鈔』に聞く  
講師 宗正元師
- 20日(土)～26日(金) 秋季彼岸会
- 22日(月) 午後1時半 秋季永代経法要 喜寿記念法話  
法話 大谷 義博 最高顧問
- 27日(土) 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習  
午後6時 同行会「現代の聖典」に聞く  
法話 山崎 哲

## 編集後記

長月(9月)の語源には諸説があり、夜が段々長くなる「夜長月(よながつき)」とする説や、雨が永く降る時季であるため「長雨月(ながめつき)」とする説があります。稲を刈り収める時期のため、「長」は稲が毎年実ることを祝う意味があるといわれています。

収穫の秋であるとともに、秋のお彼岸をお迎えします。ご先祖の仏縁に導かれ、仏法聴聞させていただくことが願われている1週間でもあります。秋季永代経法要(9月22日)には是非ともご参詣ください。  
(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス:

 <http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。  
(メールでも結構です)

 [saitokuji@ce.wakwak.com](mailto:saitokuji@ce.wakwak.com)